

消防訓練

令和6年12月4日(水)に自衛消防訓練を実施しました。
新入職者を中心に消火訓練、通報訓練、避難・誘導訓練を行いました。今後も防災意識を強く持ち、防火設備の機能と取扱説明を職員に周知し、防火管理に努めてまいります。



オレンジカフェ

毎月第4金曜日の13:00~15:00に「オレンジカフェなめがわ」を開催しています。オレンジカフェとは、「認知症の方とご家族、地域の方や当院専門職などが気軽に集い交流と活動をする場」です。新型コロナウイルス感染症の影響で人と関わる機会が減少しているなか、感染対策をした上で交流できる貴重な場所となっています。

「オレンジカフェなめがわ」では茶話会だけではなく各専門職によるミニ講座もあります。先月は「福笑いを作って正月遊びをしよう」というテーマでミニ講座を行いました。

1月のオレンジカフェは1月24日(金)に「こんな時どうする？認知症の方への声掛け」というテーマで行います。途中参加、途中退席も出来ますのでご興味のある方、お悩みのある方皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(※参加費として100円をいただきます。コーヒー、お茶を用意しております。)

～今後の予定～

【日程】	【ミニ講座】
1月24日(金)	こんな時どうする？認知症の方への声掛け
2月28日(金)	備えよう！高齢者の防災対策
3月28日(金)	イライラをスッキリするためには



行事食(12/25 クリスマス)



チキンライス、クリスマス盛り合わせ
クリスマスサラダ、コンソメスープ、ケーキ

編集後記

明けましておめでとうございます。
本年も「もりのたより」をよろしく願いいたします。
寒さが増し、体調を崩しやすい季節のため、健康に気を配りながら過ごしたいと思います。みなさまも健康に気を付けてお過ごしください。

広報委員 はせがわ



※個人情報保護の観点から、氏名の表記はひらがなとさせていただきます。



埼玉森林病院のホームページ <https://www.kokoro.or.jp/saitama/>

医療法人昭友会 埼玉森林病院



〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町和泉 704
TEL0493-56-3191 FAX0493-56-4831

新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

去年は元旦から「令和6年能登半島地震」が発生し、奥能登地域を中心に甚大な被害をもたらされました。その後、9月には同地域に豪雨による被害も加わり、1年経過した今でも、復興は遅々として進んでいない状況と伝えられています。いまだ被災生活を送っておられる能登の方々には、お見舞い申し上げます。

一方で、経済に目を向けてみると、金利上昇、インフレとこれまでとは違った局面に入っており、産業界ではDX化、生成AIの一種であるChatGPTの登場などで産業構造やビジネスモデルの変革が始まっています。さらに、ロシア・ウクライナ問題、イスラエルの紛争、アメリカ大統領選挙でのドナルド・トランプ氏の勝利、石破内閣誕生など、昨年も様々なことがありました。

今年、日本では少子高齢化の影響による「2025年問題」が以前から指摘されております。これにより、団塊の世代と呼ばれる、第一次ベビーブーム世代が、75歳以上の後期高齢者となる事で、医療費などの社会保障費の負担増、医療・介護体制の維持困難、中小企業の廃業の増加、仕事と家族の介護を両立するビジネスケアラーの増加、根本的な人材不足などの問題が顕著になると言われています。これらの問題は、すでに昨年からも認められていましたが、いよいよ本格化することになるわけです。

コロナ禍が過ぎ、世界も我が国も混沌とした時代になりつつありますが、当院では、これまで通り精神科医療を通じて、地域の皆様方の心身の健康のため、貢献をしていきたいと考えております。

最後になりましたが、新しい年が皆様方にとって、素晴らしい年になることを祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

令和7年元旦

医療法人昭友会 埼玉森林病院
院長 磯野 浩

滑川まつり・滑川町文化祭

第46回滑川町文化祭<サークル団体・施設作品展>が令和6年11月1日(金)～11月3日(日・祝)の3日間にわたって滑川町役場にて開催されました。当院も参加し、入院患者さまの作品を展示いたしました。今年の作品展には患者さまも訪れ、自分の作品がどのように展示されているのかを実際に見ることができました。他施設の作品を見て「今度こういうの作ってみたい。すごいね」と感想を話されていました。

また、第44回滑川まつりも令和6年11月3日(日・祝)に開催されました。今年は町制施行40周年の開催となり、たくさんの方がご来場されておりました。当院からは職員が持ち寄った衣類や雑貨などを販売し、バザーの売り上げは滑川町社会福祉協議会へ全額寄付させていただきました。今後も地域活動を通し、地域に貢献していきたいと考えております。



みんな幸せ・共生社会 県民のつどい

毎年12月3日～9日は障害者週間・埼玉県共生社会づくり推進週間です。

障害者に対する県民の理解を深めるため、12月1日(日)に「みんな幸せ・共生社会 県民のつどい」が吉見町民会館フレサよしみで開催されました。

記念式典や講演のほかに作品展が同時開催されており、当院からは患者さまの作品を出展しました。作品のテーマは「クリスマスとペーパークラフト動物園」です。動物たちは全て画用紙やコピー用紙、牛乳パックで作りました。

このほかにもニットの帽子、巾着袋、UVレジンなどのさまざまな作品があります。約4か月かけて完成させた力作たちです。

当院もこのイベントに参加できることを大変嬉しく思い、今後も患者さま、地域の皆さまと共に貢献できる機会を大切にしていきます。



令和6年度 看護研究内容

今年度、看護研究の担当になり、研究テーマの選定は難しかったです。研究内容を考える中で、以前病棟で実施した生活技能訓練において「叫ぶ箱」という内容を思い出しました。精神科病棟では静かに落ち着いて過ごせる事を1つの方針とする事が多いです。落ち着かず大きな声を出す患者さまには頓服薬や傾聴・自室安静などで落ち着くように促しています。一方で、大きな声を出す事がストレス発散になる事は自身の経験や先行研究で明らかです。つまり、気兼ねなく大きな声が出せる環境を作って定期的に叫ぶことで、ストレス緩和から精神状態の安定に繋がるのではないかと考えました。このことから精神疾患に対する新しいアプローチでの取り組みが出来るのではないかと「叫び」による不穏・不安症状緩和への効果 - 叫び箱を使用した精神症状へのアプローチ-」を研究テーマに定めるに至りました。

実際に叫ぶ箱を使用し気分プロフィール検査にて点数の低下が見られました。この結果は患者さまに対して有益な結果であると考えます。引き続き研究を継続し、患者さまの精神状態の安定につながる結果を得られるように努力していこうと思います。



※上の図、叫ぶ箱を組み立てた状態
看護部 B病棟

感染症対策について

近頃寒さが厳しくなっております。空気も乾燥してきており感染症が広まりやすい季節になってまいりました。地域の皆さまにおかれましてはどのようにお過ごしでしょうか？昨今マイコプラズマ肺炎、新型コロナウイルス感染症、伝染性紅斑の感染者数が増加傾向です。今後感染症が全国に広がっていく可能性が高く、感染予防が重要となります。

感染症対策

- ①うがい
- ②手洗い
- ③マスク装着



外出の際にはマスク、戻った際にはうがい・手洗い、これらを実践していただき、地域の皆さまが体調を崩さず日々の生活を過ごしていただければと思います。